

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：(株)地域価値協創システム

活動地域：北海道美幌町と周辺自治体

活動におけるテーマ

「製炭事業と社会福祉事業の融合で目指す、資源循環・脱炭素の地域循環共生圏モデル構築」

本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介

○団体の紹介

1. 北海道オホーツク地域の社会福祉事業に取り組む8NPO法人が共同出資して設立した株式会社
2. 地域資源から新たな価値を創出するために、多様な主体と協働で取り組み、次世代の地域デザインを描き、実現するための担い手、働き手を育成しつつ、持続可能な地域づくりを目指すことを目的とする。

○地域の紹介

1. 北海道オホーツク地域の自治体では、人口減少、高齢化の進捗に伴い、後継者不在による廃業や、住民サービスや環境保全活動を担ってきた法人、団体の運営に支障がでるケースが増加している。その結果、地域まちづくり活動の停滞など地域活力が目に見えて低下してきている。住民生活・地域環境の維持にも影響が出てきている。
2. 地域の主産業である1次産業では経営の大規模化が進み、経営は比較的安定しているが、品質基準に合わず出荷できない生産物も多く発生しており、その処理方法もまだサイクル化が確立されておらず、経済的なロスとなっている。

美幌町に設置した製炭炉



北海道庁「オホーツク地域のまち」

<https://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/gyosei/machi/>

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

現状から見えてきた課題

1. 多様な人たちが働ける職場づくりによる新たな労働力確保
2. 地域の基幹産業である農業において脱炭素化が求められている。
3. 未利用、捨てられる資源を活かした環境保全ビジネス創出

地域のありたい未来

「人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域外部のつながりも活かす仕組みをつくり、多様な人たちが理念を共有しつつ、主体的に行動し、民間主導で地域課題を解決していく地域社会を目指す。本取組みをもとに、脱炭素化の動きを加速させ、他地域でカスタマイズ可能な地域循環共生圏モデルを構築する。」

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）
＜コアメンバーの持つ活動実績、ネットワークを束ね、融合させた地域プラットフォーム形成を目指す＞

- ①福祉事業者が中心となり、製炭事業を核とした環境保全ビジネスを障がい者雇用のひとつの柱として育て、その過程でSDGsの考えを広めていく。
- ②地元自治体、国、道の出先機関等の行政、商工会議所、農林事業者、金融機関等との密な連携を可能にする発信力を持つ。
- ③地域内外の専門家とのネットワークを充実させ、内部循環経済に外部経済の力が加わる仕組みを構築する。

◎人的資源

- ①障がい就労希望者（200人程度）
- ②就労条件に制約がある子育て世代

◎物的資源

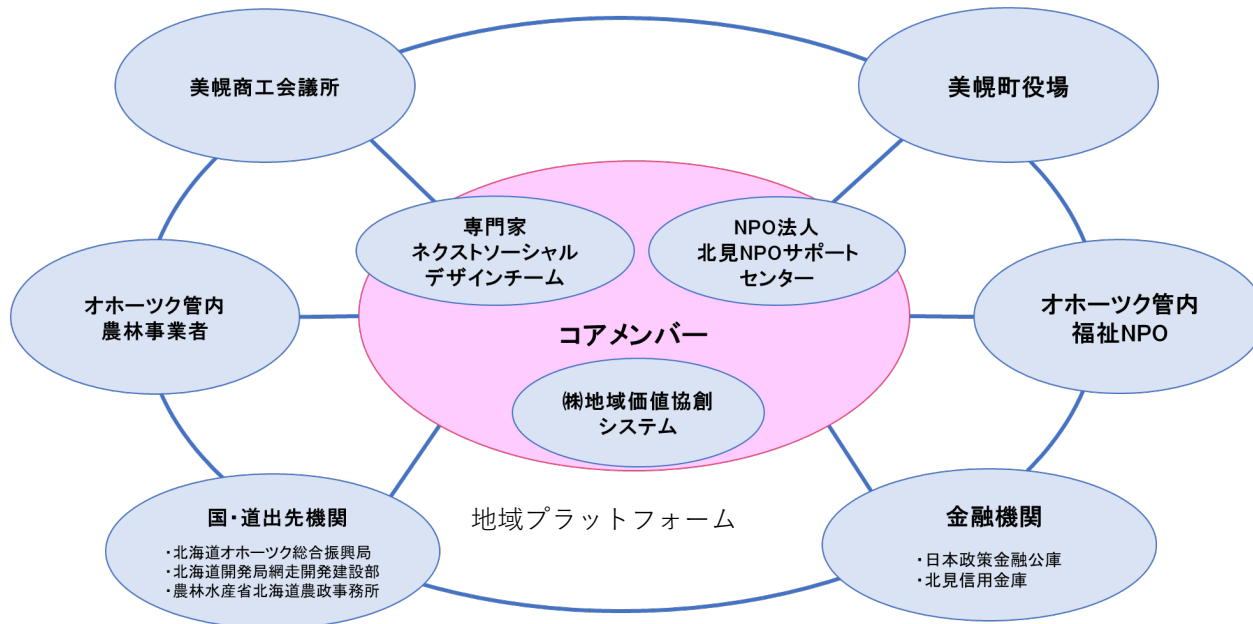
- ①黒字なのに後継者不在で廃業する小規模事業者
- ②大量の農業残差物
- ③小規模林業者生産・未利用木質バイオマス資源
- ④工事、環境保全活動に伴い発生するバイオマス資源

◎情報資源

- ①オホーツク地域の観光地イメージ
- ②1次産業生産物の北海道ブランド

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

＜コアメンバーの持つこれまで積み上げてきた活動実績、ネットワークを束ね、融合させた地域プラットフォーム形成を目指す＞

- ①福祉事業者が中心となり、製炭事業を核とした環境保全ビジネスを障がい者雇用のひとつの柱として育て、その過程でSDGsの考えを広めていく。
- ②地元自治体、国、道の出先機関等の行政、商工会議所、農林事業者、金融機関との密な連携を可能にする発信力を持つ。
- ③地域内外の専門家とのネットワークを充実させ、内部循環経済に外部経済の力が加わる仕組みを構築する。

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

「人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域外部のつながりも活かす仕組みをつくり、多様な人たちが理念を共有しつつ、主体的に行動し、民間主導で地域課題を解決していく地域社会を目指す。本取組みをもとに脱炭素化の動きを加速させ、他地域でカスタマイズ可能な地域循環共生圏モデルを構築する。」

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害、等）

1. 多様な人たちが働ける職場づくりによる 新たな労働力確保
2. 地域の基幹産業である農業における脱炭素化
3. 未利用、捨てられる資源を活かした環境保全ビジネス創出

資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

1. 人的資源： ①障害適正に応じた働き方（作業工程分割）
②短時間勤務、テレワーク、託児付き就労等働き方の多様性確保
2. 物的資源： ①SDGs理念共感者拡大によるバイオマス資源確保
②未利用バイオマス資源情報収集及び事業PR
3. 情報資源： ①生産物の品質根拠

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ、等）

- 各種バイオマス資源を利用した製炭による新たな環境保全ビジネスの創出
- プラットフォームを構築するための地域の他団体等と連携した研修会、ワークショップ等の開催

成果（取組によって出したい成果）

1. 環境分野 ① 地域主産業の1次産業からの廃棄物有効利用 ② 環境保全型ビジネス創出
2. 経済分野 ① 多様な人々の就労環境整備 ② 事業継続可能性の高い廃業事業者の事業承継
③ 障がい者就労先の多様化
3. 社会分野 ① 単独で解決困難な課題解決に対応したネットワークづくり ② SDGs実現に向けた人材育成
③ 能力を発揮しやすい働き方の確立

年間スケジュール

